

関連項目：教育活動プラン①

評価カードを活用して承認・賞賛の機会を増やす

目的

本校の児童は、明るく素直である。指示されたことや決められたことはしようとするが、自分で判断して行動したり、積極的に取り組んだりするなどの自主的・実践的な行動は十分育っているとはいえない。そこで、評価カード等を活用し、がんばりを認める場を設けることで意識を高め、実践化へとつないでいきたいと考えた。

内容

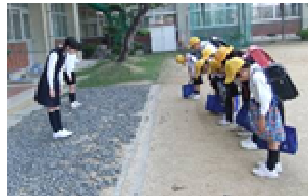
● 目標の設定・評価カードの作成

①気もちのよいあいさつ、②力いっぱい取り組む清掃、③安全な正しい歩行、④無言集合、を重点目標として、月の生活目標に取り上げ、具体的な取り組み方について生徒指導部より提案する。それをもとに学級で話し合い、実践化を図る。

【取組の具体例】

- ・ 目標達成に向けて、「学級の合い言葉」を決めて掲示し、意欲化を図る。
- ・ 児童会を中心に、「あいさつ運動」を推進する。

<あいさつ当番>



<学級の合い言葉>



<月の生活目標>



● 強調週間の設定・評価カードの活用

毎月、強調週間を設定し、一人一人が振り返りカードに記入して評価する。(自己評価)
また、友達のがんばりをカードに書いて紹介したり、賞賛したりする場を設ける。(認め合う場)

「あいさつ運動」の推進

一人一人
学級
学校全体
家庭・地域

↓

(学校だよりや学級だよりで紹介)

<評価カード>



<あいさつの木紹介>

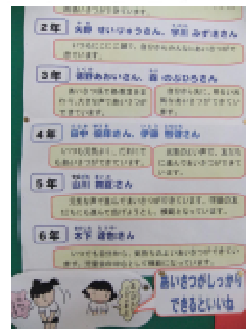


● 振り返り・評価の工夫 (評価カードの工夫)

強調週間での取組を振り返り、ステップアップできるように見直す。
がんばりやよさを認め合い、意識の高揚を図りながら繰り返し継続的に実践を積み上げていく。



<あいさつ名人紹介>



成果

目標達成に向けて、毎月強調週間を設け、がんばっている児童を紹介したり、評価カードを作成し、自分の行動を振り返らせたりすることを通して、子どもたちが意識的に取り組めるようになってきた。規範意識をより高めるためには、全教職員が共通意識をもち、行動連携により、自己有用感・存在感を高めていくことや繰り返し継続的に指導していくことが大切である。また、児童会を中心に、高学年の児童がよきモデルとして機能するような取組が必要である。